

## 《出演者プロフィール》

### 小原道雄 (チェンバロ)



7年間のドイツ留学の間、ヴィプケ・ヴァイダント氏とミヒャエラ・ハッセルト氏からはチェンバロとフォルテピアノを素材としてヨーロッパの音楽とは何かを、そして音楽家としてあるべき姿を学ぶ。愛知県立芸術大学（音楽学）首席卒、ライプツィヒ音楽大学（古楽器）卒、フランクフルト音楽大学（古楽器）。大阪国際音楽コンクール・アーリーミュージック（古楽器）部門入選、ファイナリスト(2009)。

「古楽de酒蔵コンサート」主宰(2004-)。名古屋バロックオーケストラ音楽監督(2010-2015)。欧州内にてソロツアー(2013、2015)。NHK文化センター名古屋教室講師(2014)。ポルト市立音楽院始め、ポルトガル国内のチェンバロマスターコース講師(2015-)。

ベルリン楽器博物館Alte Musik Treff、ポルトガル大使公邸など要所での演奏に加え、古楽器オーケストラによるオペラ公演の指揮、現代音楽の世界初演、邦楽、フラメンコ、ファド、人形劇等との共演も行う。著書としてエッセイ「ポルトガル、大地が終

わり海が始まる国(月刊なごや2015年10、11月号連載)」。名古屋バロック音楽協会、大阪日本ポルトガル協会、一般社団法人日本ポルトガル協会会員。やまのて音楽祭実行委員。

最近では声楽やフラメンコも楽しみ、歌って踊れるチェンバリストを目指す。ヨーロッパでのライブ録音はアリアCD(www.aria-cd.com)から発売中。名古屋以外に首都圏・大阪でもレッスンを提供。教室紹介; <http://www.oharas-nagoya.info/>

### イザベル・カラード(チェンバロ)

ヴィラ・ノーヴァ・デ・ファミリカオン生まれ、ポルト在住。ポルトガル始め、スペイン、フランス、イギリス等ヨーロッパ各国でソリスト、アンサンブル、オーケストラで活躍。ポルトガル国内ではアルガルヴ・オーケストラ、ノルテ(北部)オーケストラ、オーケストラ・コンコルダスと共演。ノルテオーケストラでは、バロック音楽レパートリーの指揮も担当している。アンサンブルの分野ではムジカ・エト・テンポラ、イギリス在住のテノール、マルシオ・ダ・ロザによるアンサンブル・ドス・ビシュカイニョスの各グループメンバーとして活動。CDはポルトのランジェル・スタジオからC.P.E.バッハのプロイセン・ソナタ集、F.クープランの第8、第10オールドル集を発売中。他にもリスボンの楽器博物館所蔵1758製ポルトガルに唯一残るオリジナル楽器でのD.スカララッティ作品の録音がある。2016年中にはテノール歌手マルシオ・ダ・ロザと18-19世紀ポルトガルの未出版作品の録音を控える。演奏活動と同時に、自身が学んだポルト国立音楽院でチェンバロと通奏低音の授業も担当。2006年にリスボン音楽大学にてチェンバロと他楽器の専攻を終了、2011年にポルトのカトリック芸術大学にて音楽教育マスター資格を取得。Gustav Leonhard, Carole Cerasi, Terence Charlston, Jacques Ogg, Ilton Wjuniski, Ketil Haugsand, Rinaldo Alessandrini, Giorgio Cerasoli, Laurence Cummings, Sieber Henstraら、古楽の著名人たちとの共演でさらなる研鑽を積む。2005年にはリスボン技術文化研究機関から最優秀賞を受賞。上記のCD録音に加え、テノール歌手マルシオ・ダ・ロザとのトロファでのコンサート、イザベル・カラード自身による16-18世紀チェンバロ奏法の初心者向け教則本の執筆を予定している。

